

議題 2 「(仮称) 横須賀市新環境基本計画」(素案)における「環境教育・環境学習」について

本日、ご議論していただきたいこと

前回の当会議で「(仮称) 横須賀市新環境基本計画 (以下、「新計画」という。))」の策定にあたっては、現行「環境教育・環境学習マスタープラン (以下、「マスタープラン」という)」を新計画へ統合し、新計画における基本目標の1つとして新たに『環境教育・環境学習』を掲げること、また、新計画における「環境教育・環境学習」の体系についてご説明しました。

本日は、令和3年3月9日(火)に開催した第69回環境審議会の資料「新計画(素案)」をもとに、施策の柱や施策の方向等についてご意見をいただきたいと考えています。

1 新計画における「環境教育・環境学習」の課題の整理

⑤環境教育・環境学習

「横須賀市環境教育・環境学習マスタープラン」に基づき、自然観察会や講演会、市民参加の研究発表会、ワークショップ等のイベント、市民協働モデル事業の実施など環境についてふれあい、学ぶ機会や場を提供する環境教育・環境学習の事業を推進してきました。

さらなる取組の拡大・充実のために、これまでの機会や場の提供とともに、環境活動を指導・牽引できるリーダーを養成・育成することについての検討が必要です。

また、市民・市民団体・事業者や研究機関との連携による活動促進のための取組の検討を推進していくことが求められます。

(第69回環境審議会資料抜粋)

2 新計画における基本目標と施策の柱



- 環 境 像 人の自然のやさしさが調和した環境を未来へつなぐまち よこすか
- 基本目標5 環境にやさしい社会の担い手を育むまちをめざします
- 施策の柱 ①環境教育・環境学習推進のための体制づくり (SDGs ゴール4、12、17)
 ②環境教育・環境学習の機会の充実 (SDGs ゴール4、12、17)

基本目標5

環境にやさしい社会の担い手を育むまちをめざします

(1) 基本目標で目指す姿と指標

①基本目標で目指す姿

環境教育及び環境学習として、誰もが参加・利用できる機会・場づくりを推進するとともに、積極的に情報提供・普及啓発を行うことで環境への関心を高め、市民の環境に対する知識を深めることを目指します。

さらに、自ら行動する人づくりと連携・協働を推進し、各主体が一体となって環境保全に取り組む土壌を形成します。

②施策の体系

基本目標5 環境にやさしい社会の担い手を育むまちをめざします

施策の柱① 環境教育・環境学習推進のための体制づくり

施策の柱② 環境教育・環境学習の機会の充実

③基本目標達成の目安となる指標

施策の柱	指標			
	項目	単位	現況	目標
① 環境教育・環境学習の体制づくり	• 環境教育指導者派遣回数			
	• 環境教育拠点施設数			
② 環境教育・環境学習の機会の充実	• 環境問題に関する講習会やセミナー参加者数			
	• 市主催による講習会の開催回数、参加者数			
	• 横須賀いいね★エコ活動表彰回数			
	• 環境保全活動団体数			

(2) 施策の柱ごとの方針

施策の柱① 環境教育・環境学習推進のための体制づくり

i これまでの取組と課題

本市では、環境活動を行っている市民ボランティア等の環境教育指導者としての派遣や環境教育に活用できる教材や情報の提供など、市民が環境保全活動に積極的に取り組めるような体制の構築を行ってきました。

今後も、環境教育・環境学習を通じて、持続可能な社会づくりへ主体的に参画できる人材の育成が求められます。

関連する写真

ii 施策の方向と実現に向けた取組

①自ら行動する人をはぐくみます

市で実施する環境教育・環境学習に係るイベントや講習会における指導者の登用及び活用の拡大を図るとともに、指導者育成に向けた制度を検討します。また、持続可能な社会の担い手づくりとして、ESD 環境教育を推進します。

②各主体間の連携・協働を推進します

情報交換や意見交換等を通じた連携に向けて市民団体や事業者等とのネットワークの構築について検討するとともに、各主体と連携した環境イベントの開催を検討します。

iii 市民・事業者ができること（例）

- 環境に関する専門的知識や経験を有する「環境教育指導者」の出前授業を受けてみましょう。
- 市や環境関連団体などが主催する環境学習会などへ積極的に参加しましょう。
- グループで環境保全活動を企画して、実行してみましょう。

(第 69 回環境審議会資料抜粋)

施策の柱② 環境教育・環境学習の機会の充実

i これまでの取組と課題

本市では、日本環境協会が実施することもエコクラブ事業への登録、保育園で地球温暖化や環境問題について学ぶエコ育集会、一般市民を対象に環境への関心を深めてもらう横須賀かんきょうフォーラムの開催をはじめとし、その他、自然観察会や講演会、ワークショップなどのさまざまな取組を実施してきました。

関連する写真

今後も、あらゆる人が環境教育・環境学習に主体として関わるきっかけづくりとして、環境に関するさまざまな体験や講座、イベントなどへ参画・参加する機会を設けていくことが必要です。また、取組を促進するために、持続的な活動を行うための拠点や場の充実が求められます。

ii 施策の方向と実現に向けた取組

①環境教育・環境学習の機会・場の創出に努めます

環境教育・環境学習として、市の環境を学び・体験する猿島自然観察会等の体験学習会を開催します。また、市が行っている環境保全活動に関する取組の周知や環境関連施設の環境教育・環境学習の拠点としての活用に努めます。

②情報提供・普及啓発を推進します

横須賀市環境学習プログラムの活用推進や広報誌やインターネット等の媒体を通じた環境教育・環境学習の支援に関する情報提供により、市内の環境学習を推進します。

iii 市民・事業者ができること（例）

- 魅力ある自然観光資源を守りながら、身近にふれあうことができる横須賀エコツアーに参加しましょう。
- 子ども達が自然にふれあう機会を増やし、自然環境への興味関心を促進しましょう。
- 環境問題に関するニュースや市から出される環境に関する報告書を読んでみましょう。

(第 69 回環境審議会資料抜粋)

第5章 リーディングプロジェクト

1 リーディングプロジェクトの概要

(1) リーディングプロジェクトとは

本計画において掲げる「環境像」の実現に向け、各施策の柱ごとに取り組みを進めることが重要である一方、多様な主体と連携し、総合的かつ先導的に取り組むべき事項について、明らかにし、取り組みの機運を高めていくことも必要です。

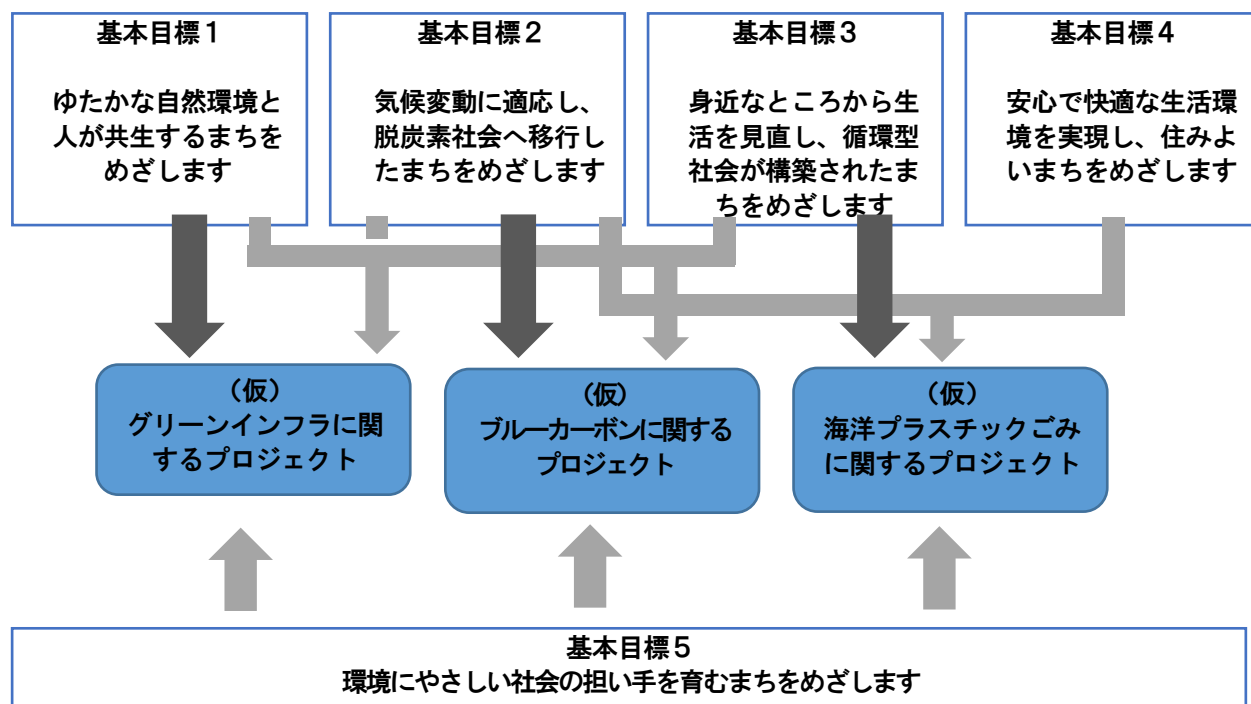
リーディングプロジェクトは、こうした総合的かつ先導的に取り組むべき施策を明確化し、計画全体を先導していくシンボリックな役割を担うものとして位置づけます。

(2) リーディングプロジェクトの設定の考え方

本市は、三方を海に囲まれ、首都圏にありながら自然環境に恵まれた点が最大の魅力となっていますが、近年では、気候変動への適応や、海洋プラスチックごみ対策などの新たな環境課題に取り組む必要が生じています。

また、国の「第五次環境基本計画」や「持続可能な開発目標（SDGs）」においても示されるように、環境、社会、経済の問題は相互に関連し、複雑化していることから、これらの課題を統合的に解決することが求められています。

このような状況を踏まえ、本計画においては、他の環境分野と連携し、統合的に課題を解決し、環境像を実現するために、次の視点からリーディングプロジェクトを設定します。



(第 69 回環境審議会資料抜粋)

2 リーディングプロジェクトの内容（たたき台）

◆リーディングプロジェクト候補案プロジェクト1：（仮）グリーンインフラに関するプロジェクト

【プロジェクトの全体像】

本プロジェクトでは、本市が有する自然資源についてグリーンインフラとしての活用方を検討するとともに、多面的な機能を活用し、生態系保全やヒートアイランド対策をはじめとする環境保全、さらに自然災害への対応など地域課題の解決を目指します。

【取組の方向性・期待される効果】

本市が所有する樹林地、田畑、河川などの自然環境について管理し、健全な状態を維持することで洪水被害軽減を図ります。その際、新たなパートナーシップの構築やビジネスチャンスの創出を目指します。

また、都市部においては、公園の整備や維持管理のほか、地域住民による市街地の緑化を通じて、暑熱環境の改善や自然とのふれあいの場を創出します。

さらに、市街地の更新、公共施設の再編、民間開発等にあわせて、みどりの空間の創出やオフィスの空間における自然環境との調和の視点を導入するなど、事業者との連携により、ヒートアイランド対策を推進するとともに、人々へやすらぎを与えるまちの形成を図ります。

【取組例】

※より先進的で波及性の高い取組を検討中

- 樹林地、田畑の保全、維持管理
- 公園のグリーンインフラとしての活用
- まちづくりにおけるグリーンインフラの創出
- 局地的大雨を踏まえた都市内浸水対策

(第 69 回環境審議会資料抜粋)

◆リーディングプロジェクト候補案2:(仮)ブルーカーボンに関するプロジェクト

【プロジェクトの全体像】

本プロジェクトでは、海に囲まれた本市の環境特性を活かし、二酸化炭素吸収源となるブルーカーボンに関連した取組を通じて、地球温暖化対策や海洋環境に寄与することを目指します。

【取組の方向性・期待される効果】

本市近海の藻場の保全、再生、創出を行うことにより水質の改善や「海のゆりかご」となる藻場による浅海域・海域環境を保全するとともに、二酸化炭素吸収源として地球温暖化対策にも寄与する取組を検討・実施します。

また、市内の学校や子どもたちによる体験の機会や場を創出し、ブルーカーボンや海洋プラスチック対策、海洋環境保全などについて学ぶことを併せて進めていきます。

二酸化炭素吸収量は、市内企業へクレジットとして売却（取引）するほか、ブルーカーボンオフセットについてのイベント開催、事業者への温暖化対策支援のほか、新たな事業展開に繋げていきます。

さらに、漁業者との連携・協力により整備・管理した藻場や海藻を活用した漁業の活性化にも繋げていきます。

【取組例】

※より先進的で波及性の高い取組を検討中

- 市民、子ども、事業者、漁業関係者との連携による藻場の保全、再生、創出
- ブルーカーボンの普及啓発
- ブルーカーボンオフセットの展開（クレジットの販売、イベント開催）
- 海藻、藻場の多面的利用の推進（海産物のブランド化、水産バイオマス資源としての活用）
- 2050年度ゼロエミッションに向けた再生エネルギーの導入（例：風力、波力、潮力エネルギー、藻類バイオマスによる発電事業の研究、実証）

(第69回環境審議会資料抜粋)

◆リーディングプロジェクト候補案3：（仮）海洋プラスチックごみに関するプロジェクト

【プロジェクトの全体像】

本プロジェクトでは、海洋プラスチックごみ削減を目指すとともに、使い捨てプラスチックの使用削減や代替プラスチックの普及により、ごみ排出量の低減、温室効果ガス排出量の削減などの環境負荷低減のほか、本市の美しい海の保全に向けて取組を進めます。

【取組の方向性・期待される効果】

「海洋プラスチックごみ対策アクション宣言」に基づき、海岸・海洋におけるごみ回収やモニタリングを実施するとともに、ごみ散乱防止に向けた意識啓発により、市民・事業者が一体となって、ごみのない健全な海洋環境と景観の保全に取り組めます。

また、各主体と連携した環境教育・環境学習の機会を創出し、海洋プラスチックごみだけでなく、本市固有の財産である海の環境保全に関する意識醸成を図ります。

ワンウェイプラスチックの使用低減の普及促進、プラスチックごみの削減と資源循環に取り組むとともに、プラスチックごみの発生抑制に寄与するプラスチックの素材転換や代替品の利用を促進するとともに、市内飲食店における代替プラスチックの導入や分別・リサイクルしやすい製品の開発などによる事業者の取組の促進・支援を図ります。

ごみ散乱のないきれいなまちづくりを通じて、海洋都市としての本市の魅力向上を目指します。

【取組例】

※より先進的で波及性の高い取組を検討中

- 容器包装プラスチックのリサイクルの徹底
- プラスチック代替品の普及促進
- 廃プラスチックのリサイクル産業の育成、促進
- 海ごみゼロウィークにおける一斉清掃活動の実施

(第69回環境審議会資料抜粋)